

Q 作文が苦手なのですが・・・

よしと君は作文を書くことが苦手です。作文の時間では、白紙のまま提出することも少なくありません。

そこで、先生はアセスメント（子どもの様子をじっくりと見て、どんなことがこのつまずきに関連しているかを考えること）をしました。

担任の先生は、よしと君の発表場面での様子かどうかをチェックしました。その結果、発表場面でも内容が乏しかったり、筋道がとおっていない様子がみられました。



ここで行われたアセスメントのポイント！

- 作文（書く）という表現領域だけでなく、同じ表現領域である発表（話す）についても実態把握を行う
- ほかの表現領域にもつまずきが見られる場合には、話す領域への支援を先行させるか、あるいは同時平行で行う

推測できるつまずきの要因

- どのように表現したらよいか分からない
- 順序立ててものごとを考えることが難しい
- イメージをふくらませることが難しい



指導編は以下に

アセスメントに基づいて、担任の先生は、次のような指導を行ってみました

- A 発表・スピーチの授業も配慮する
- B 何についての作文を書くか事前に予告しておく
- C 作文の下書きやアウトラインメモを用いる
- D 写真など、作文を書くときの手がかりを用意する

担任の先生が行った指導の意味

- Aのように、同じ表現領域である「話す」に対しても配慮を行うことで、相乗的な効果がみられます。
- テーマを告げられ、すぐに取りかかれることは少ないでしょう。Bのように、事前に考える時間、家庭で話し合う時間が取れると、題材のヒントが得られやすくなります。
- すぐに原稿用紙に書くのは難しいので、Cのように、アウトラインメモをつくるようにします。「いつ」「どこで」「誰が」「何をして」「どう思ったのか」など、質問形式に書きやすいでしょう。またそのメモにしたがって清書すれば、順序立った作文を構成できます。
- Dについて、遠足がテーマであれば、そのときの写真、社会科見学がテーマであれば、見学先のパンフレットなど、そのときの資料があると、イメージがわきやすくなります。